

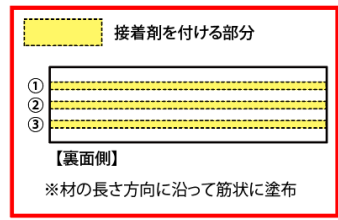
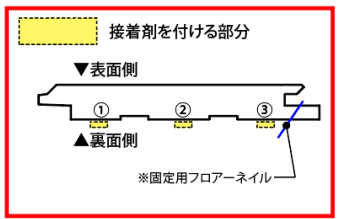
必ずお読みください

本品は天然木の無垢製品です。お施主様に、木の長所・短所を十分に説明し、ご理解いただいた上でのご使用をお願いいたします。

事前のご注意と 施工条件

1. 施工前

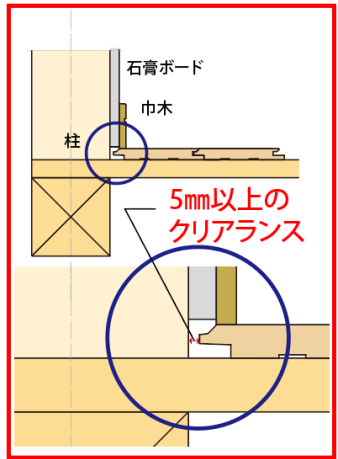
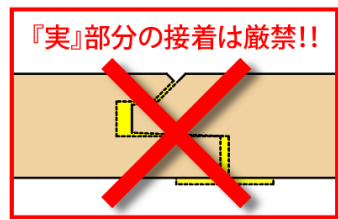
- ① 製品が届いたらすぐに状態の確認をしてください。
■万が一製品に不具合がありましたら交換をいたしますが、
施工後や加工後の対応はいたしかねますのでご注意ください。
- ② 開梱し、十分に施工現場の環境に馴染ませてください。
■天然無垢材の性質上、膨張・収縮が起こります。各材の含水率を均一にするために、
開梱した状態で必ず一週間以上放置し、十分に施工現場環境に馴染ませてください。
■保管は直射日光や雨水のかからない屋内の乾燥した場所に、台や栈木を介して水平
に置いてください。変色や変形の原因となります。
■天然無垢材ですので、一枚ごとに色柄が異なります。施工前に必ず仮並べを行い、
色柄のバランスを考慮して割り付けてください。
- ③ 下地条件【合板下地】
■必ず乾燥した合板下地とし、12ミリ以上の耐水合板を使用してください。
■合板の接手は2〜3ミリ開け、継ぎ目段差（1ミリ以下）がないようにご注意ください。
なお、施工の際、合板の継ぎ目とフローアの継ぎ目が揃わないよう注意してください。
- ④ 施工条件【接着剤・釘】
■必ず接着剤と釘併用で施工してください。接着剤はF☆☆☆☆ 1 液型ウレタン樹脂系
接着剤（木質床用）とし、酢酸ビニル系（木工用ボンド）は使用しないでください。
フロアの反りや床鳴りの原因となります。
■釘は下地の厚みを考慮した長さのフローリング用ステープル、
またはスクリーフロアネイルを使用してください。
（フィニッシュネイルは保持力が弱いので使用しないでください）
- ⑤ その他
■本品は床暖房対応品ではありません。
■水濡れや高湿度環境が継続する環境での使用には適しません。



施工の手順とポイント

2. 施工

- ① 下地状況確認（清掃・不陸・乾燥）
■合板下地が健全な状態であることを確認ください。
- ② 割付け
■色調や木目等が偏らないように仮並べ配置しながら割付けの墨出しをしてください。
事前の仮並べは美観上はもちろん、端材の有効活用にもつながります。
- ③ 貼り込み
■接着剤はフロア裏面の山部（3山）長さ方向に、筋状に付着させてください。サネ部には接着剤が付着しないようご注意ください。
■あて木を利用してフローリングを軽くたたきながらサネをさし込み、貼りこんでください。なお、フロア間は梅雨時期等の湿度の高さに応じて適宜、はめ込み具合を調整ください。敷居や框等に接する場合も同様です。
■メスサネ下あご部へピッチ300ミリ程度でやや斜め打ちでフローリング用ステープルで固定し、頭が浮かない様、ポンチ等で締めてください。（スクリーフロアネイルの場合は必ず下穴をあけてください）
■壁との取り合いはボードや巾木で隠れる範囲で、5ミリ以上のクリアランスを設けてください。柱や間柱等にフローリングが接しているとフロア全体の収縮膨張により反りや床鳴りの原因となります。なお、施工が広範囲（フローリング巾方向）となる場合はエキスパンションとなる見切り材等の施工をお奨めします。
- ④ その他
■アルミサッシ取付部や設備配管貫通部との取り合い部等、結露で濡れる可能性がある部位は防水性の高い塗料塗布等の防水処理をお奨めします。



施工後

3. 養生

接着剤を十分乾燥・固化させるため、床貼り終了後、1週間程度の養生を行ってください。

■細かい塵まで完全に取り除き（水拭き厳禁）、通気性のある養生シートまたは養生ボードにて全面（部分的な日焼け防止）を保護してください。

■無塗装品は時間の経過でヤニ（樹液）が染み出すことがあります。その場合は無水エタノールを浸み込ませた布で拭いてください。色が定着してしまっている場合は紙やすり（＃180～240）で磨いて落とすあと、固く絞った布で拭き取ってください。

■養生テープは直接本品に使用しないでください。

テープを剥がす際に表面を傷つけ、また付着物が残る可能性があります。

■養生中は通気が阻害されるためフローリングにとって良い環境ではありません。室内の環境にご配慮ください。（湿気が溜まらないように換気を行う、水の入ったバケツや濡れ雑巾を置かない等）

メンテナンス

4. お手入れ

表面仕様（無塗装・ウレタン塗装・自然塗装等）によって方法が異なります。

■無塗装の場合、木材表面の保護が無い状態です。

汚れやすく、色のついた液体（醤油やコーヒー等）は特にシミになりやすいです。

汚れたり濡れたりした場合はすぐに拭き取る事が重要です。

普段は埃等の汚れをこまめに清掃、布でカラ拭きし、落ちない場合は固く絞った布で拭いてください。できればワックス（水性でないもの）がけをお奨めします。

■ウレタン塗装の場合、表面に塗膜を形成するため、比較的耐水性もあり汚れにくいです。お手入れは、希釈した中性洗剤を柔らかい布に含ませて固く絞って拭き取り、その後ぬるま湯で固く絞った布で洗剤成分をふき取り、カラ拭きして水分を除きます。アルコール、ベンジン、シンナー等はウレタン被膜を溶解しますので使用しないでください。熱にも影響を受けますので、熱いやかんや鍋等の直置きは避けてください。

■自然塗装の場合、塗料は木材表面に浸透している状態ですので徐々に撥水性は低下します。普段のお手入れは無塗装と同じでカラ拭きが基本です。定期的に木質フローリング専用のオイル塗装をお奨めします。

5. その他

■エアコンや換気システム等の風が直接当たる場合、

過度の乾燥により収縮や割れが発生する場合があります。

■常時水がかかる恐れがある浴室の入口や洗面所や水拭きの必要のある部位へのご使用はお勧めできません。（防腐・防カビ・防水等の薬剤処理はしておりません）

水に濡れたまま放置することでシミや変色だけでなく、カビや腐朽菌の発生、膨れや反りの原因となります。

■重量物（ピアノや金庫等）はフロアー表面の凹みや床損傷を防ぐために、床面と重量物の間に荷重分散板を、椅子やテーブルの脚等は傷防止緩衝材を取りつけてください。

■天然無垢材です。色柄による返品交換はいたしかねます。

■本説明書は一般的な事柄を解説しています。室内フロア以外の用途の場合も含め、ご不明点は下記へお問合せください。

その他のご注意

(2026.07)